

医療法人財団 愛泉会

愛知国際病院

老人保健施設 愛泉館

みやまみやま

vol.88

特集 エンドオブライフ・ケア

人生の最期まで寄り添う

CROSS people

病棟 看護師×愛泉館 看護師

医療法人財団 愛泉会で働く仲間たち

住宅型有料老人ホーム カナン





Message for you



愛泉会の広報誌が
ついに合併いたしました

愛知国際病院広報誌「みなみやま」と老人保健施設愛泉館広報誌「愛泉館だより」が合併し、法人(愛泉会)の広報誌として、多くの情報を「みなみやま」から発信していくことになりました。人生は「病気をしたとき」「年をとったとき」と区別できるものではありません。年齢を重ねるほど「これからどうなっていくのだろう」と不安になることも多いものです。だからこそ、愛泉会で提供している「エンドオブライフ・ケア」について知っていただくことで、少しでも不安の解消につながればと願っています。

この広報誌のように、各施設がより一層シームレスにつながっていくことで、どこで、どの施設について尋ねていただいても、きちんとお答えできる愛泉会でありたいと思います。今すぐ必要ではないことでも、お知りになりたいことがありましたら、どうぞお気軽にお尋ねください。

医療法人財団 愛泉会
理事長 井手 宏

人生の最期まで寄り添う

超高齢化によって、やがて迎える多死社会。

誰もが人生の最期を安心して過ごすために、新しい終末期ケアが求められています。

多死社会の到来と「看取り」の在り方

超高齢化と共に死者数は増え続け、2025年には年間150万人以上という多死社会を迎えます。現在、7割以上が医療施設で亡くなっていますが、すでに飽和状態であること考え、今後は自宅や高齢者施設

などでの「看取り」が増えることは明らかです。病气や老いを抱えながら地域で最期まで生活し続けることが身近になる多死社会では「エンドオブライフ・ケア」という新たな終末期ケアが求められます。

身体へのケアだけでなく、その人の想いも受けとめる心のケアも必要

「エンドオブライフ・ケア」とは、がん患者に対する「緩和ケア」や終末期に特化した「ターミナルケア」など、病気の痛みや苦痛を和らげるだけではなく、誰もが安心して人生の最期を迎えられるように、その人の想いも受けとめ、終末期までの道のりをよりよく過ごす援助をすることです。病院、老人保健施設、住宅型有料老人ホーム、ホスピス、訪問看護ステーションなど、さまざまな機能を持つ愛泉会(医療法人財団)は、それぞれの状態に応じて、お一人おひとりに必要なケアを提供し、ご家族と共に、人生の最期まで寄り添っていきます。

最期を迎える 終末期

残された時間を自分らしく穏やかに過ごせるようにケアをします。



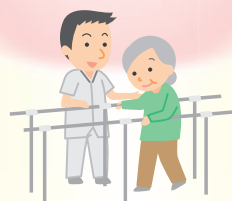
日常生活を送る 生活期

自宅や施設に戻り、デイケアやリハビリで機能を維持しながら過ごします。



自宅復帰を目指す 回復期・療養期

症状の改善に加え、生活機能の維持・向上のため、リハビリなどを行います。



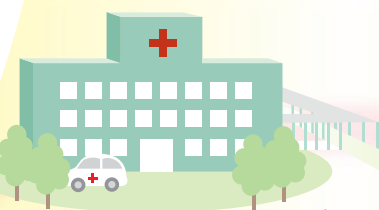
病气やケガをした 急性期

検査などで原因を明らかにして適切な治療を進め、症状を和らげます。



愛知国際病院

かかりつけ医として診断や治療を施すと共に、医療と介護がつながり、治療中から日常での生活を想定したケアを提供します。



老人保健施設 愛泉館

最期まで自分らしく過ごしていただけるよう無理のない範囲でリハビリを行い、日常生活を支えます。



住宅型有料老人ホーム カナン

1日1日、くつろいで過ごしていただけるようにお手伝いします。



訪問看護ステーション えまい

かかりつけ医やケアマネジャーと協力して自宅で安心して過ごせるように支援します。



ホスピス

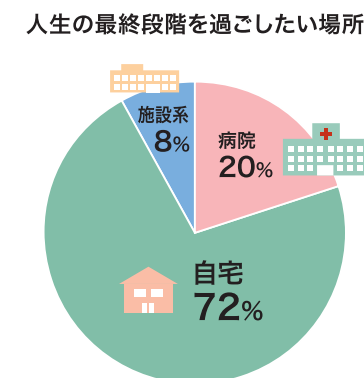
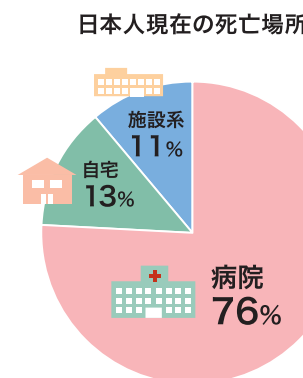
症状を和らげ、その方が大切にされてきた日常生活を尊重するため、専門職とボランティアもお手伝いします。



そのほか、指定居宅介護支援事業所「愛泉館」、日進市東部地域包括支援センターも、患者さんやご家族に寄り添います。

看取りに対する理想と現実

現状では7割以上が医療施設で亡くなっていますが、多くの人は自宅で人生の最期を迎えることを望んでいます。



出典：厚労省「平成26年人口動態調査」「人生の最終段階における医療に関する意識調査(平成26年)」



着物を披露したとき、ふだん喋らない入所者の方が「きれいね」と声を発したことがありました。私のうれしい思い出の1つです。



患者さんの死生観との向き合い方
柏木 80歳代の入院患者さんで、「私は周囲の誰にも迷惑かけたくないから、できれば一人で逝きたい」と、入院時から死装束をきちんと用意して、そつとロッカーに入れていた方がいました。そしてある日、病室で穏やかに息を引き取られました。本当に言われたとおりに亡くなられたのだと、意志の強さのようなものを感じました。

阿達 その方は死生観をきちんと持っていて、それを貫かれたんですね。

柏木 ただ、娘さんは「周りに迷惑をかけたくない」という母親の気持ちを受け止めながらも、やはり亡くなってから病室を訪ねるのはとても辛かったですと思います。

阿達 私たちは入所者さんやご家族の想いを尊重し、寄り添うことも大切な役割だと改めて感じます。

柏木 死生観については、患者さんに聞きづらいときもありますが、できれば元氣なうちに気持ちを聞かせていただいて、それを少しでも支えていけたらと思います。

阿達 私も愛泉館で看取りをさせていただいた方が何人かいます。最期を迎えるとき、そばにいらせてもらえるのは本当にありがたいけれど、何もできない自分を痛感します。だからこそ生きていく時間を心地よく過ごしてもらえよう、お手伝いしようという心を決めています。

気持ち揺れ動くのは自然なこと
柏木 最期に立ち会うときの葛藤は病棟も同じです。「何もしません」と自然のままに亡くなっていく方もい



最期までそばにいられることは、本当にありがたいと感謝しています。

患者さんの想いを実現できるようにお支えできたらいいなと思います。

病棟 看護師 柏木 真紀

愛泉館 看護師 阿達 由紀

「ご本人やご家族の想いをできる限り尊重する、私たちの「エンドオブライフ・ケア」



患者さんの多くは、私より年上の人生の先輩です。尊敬する気持ちをいつも忘れず、患者さん主体の看護を心がけていきたいです。

阿達 最初に勤務した病院は「患者は医師の言うことを聞くのが当たり前」という所でした。その空気が私には重くて、いったん医療の現場を離れました。その後、保育園で働いていたのですが、たまたま愛泉館で3日間ほど職場体験をさせてもらったことが縁で、こちらで働くようになりました。

柏木 看護師として復帰された決め手は何だったのですか。

阿達 ちょうど体験時に流しうめんななどの行事をしていたのですが、あたたかくていい雰囲気だったんです。ああ、こういう職場なら、また看護師をできるかもしれないって。

柏木 私は人と関わる仕事が好きで看護師になりました。ここは医師が患者さんと視線を合わせてしっかりと話をし、スタッフは「患者さんのため」という優しさを持って働いているのがいいですね。

阿達 そうですね。私は入所者さんに支えられていると感じることがあり

らっしゃれば、ご本人の意向に反してご家族が「やっぱり点滴だけはお願いします」と言われることもあって…。

阿達 たとえ事前に、入所者さんやご家族と確認が取れていても、いざそうなる時、気持ちが揺れ動くのは人として自然なことなんです。だから、いつも寄り添いながら、今の気持ちを柔軟に受け止められる体制を整えておくことが大切だと思います。

柏木 愛泉館は病院、老人保健施設、訪問看護、デイケア、ホスピスと、さまざまなケアを提供できるので、ネットワークを活かしてご本人やご家族ができる限り支えていきたいですね。

ます。心の余裕がなくなると苦しいとき、じつとそばにいてくれたり、励まされたり。「ユマニチュード」という認知症ケアの基本は「あなたは大切な存在です」と伝え続けることですが、同じことをしていただいている気がします。

柏木 病棟でも「ユマニチュード」を積極的に取り入れています。病室に入るとき、これまでノックの回数はまちまちで、反応がなくても「入りまーす」と入室していましたが、今はきちんと3回ノックして返事を待つ。ささいなことですが、相手を尊重する大切なことだと気づかされました。ところで阿達さんは「ユマニチュード」を広める活動もしていますが、これからの目標はありますか。

阿達 「ユマニチュード」を全職員に広げることです。相手の目を見て話し、受け入れる。人と人の関わりが基本ですから、入所者さんと看護師に限らず、あらゆる人間関係に活かしてほしいと思っています。

Profile

病棟 看護師
柏木 真紀

JOCS(日本キリスト教海外医療協会)より研修ワーカーとしてインド・ネパールに派遣され、海外医療協力で従事。故川原啓美前理事長との出会いがきっかけで2006年愛知国際病院に入職。



愛泉館 看護師
阿達 由紀

看護師、保育士を経て、2002年愛泉館に入職。認知症ケア「ユマニチュード」を広め根づかせるよう力を注ぐ。愛泉館の入所看護リーダーとして活躍する一方、3人の子どもを持つ母親でもある。





訪問介護「ヘルパーステーション」も運営しています。



スタッフが常駐し、いつも身近で見守ります。 デイサービスの利用者さんをご自宅までお送りします。

職場のこと
仕事のこと

住宅型有料老人ホームカナン
居心地のいい家庭のように
共に時間を過ごす場所

カナンは全17室と少人数の住宅型有料老人ホームです。ゆったりと静かな環境の中、その人らしさを尊重しながら、個々との関わりを大切にしています。ここは入居者のみなさんにとって生活する空間であると同時に、常駐する私たちスタッフにとっても1日の多くを過ごす第2の家のような場所。日々の生活に不自由がないよう、支援させていただくのがスタッフの仕事ですが、じつは入居者のみなさんから逆に元気をもらうことも多い毎日です。

デイサービスも併設しているので、昼間は利用者の方と一緒にプログラムを楽しんだりしてホールは賑やかです。初詣



お花見
季節とふれあう行事は、スタッフにとっても楽しみの1つ。

手づくりアルバムをプレゼント

入居者の方のお誕生日には、メッセージ入りの手づくりアルバムをお渡ししています。



入居者のみなさんと和気あいあいと過ごしています。



施設管理者・介護福祉士
三村 隆介
2010年入職。愛泉館で入所者の介護を担当した後、カナン(2015年オープン)の立ち上げから関わり、現在に至る。

家族のついでに
お世話させて
いただきます。

やお花見、ピクニックなど季節の行事も人気です。
50代〜60代の女性スタッフが多く、入居者のみなさんにとっては娘世代に近いこともあり、とてもアットホームな雰囲気に包まれています。カナンが居心地のいい家庭になれるよう、家族の一員のつもりで、一緒に時間を過ごしています。

各職種が連携を取りながら見守ります



外来
看護師
愛知国際病院 外来看護師 副主任
高橋 あすか

つねに学び、ケアの引き出しを増やす
「共にいること」を大切にしています。これで良いのだろうかと迷うこともありますが、どんなときも患者さんやご家族と共に悩み、そばにすることが大切だと思います。不安や悩みが和らぐ場所となるよう、つねに学び、スタッフ同士でケアの引き出しを増やしながらか、安心につながる声掛けを心がけています。



介護
福祉士
愛泉館 介護福祉士
宅間 勝也

その人らしく生きることに力を尽くす
入所者さんとの関わりを大切に、職員というより、近い知人として気軽に相談される存在でありたいと考えています。そのためには、注意深い介護を通じて最期のときを感じ取る。そして、その方の人生に関われることに感謝しながら、その人らしく生きることに力を尽くしていきたいと思います。



訪問
看護師
訪問看護ステーションえまい 看護師 主任
神谷 有紀

在宅での生活を24時間体制で見守る
「最期まで住み慣れた家で過ごしたい」という患者さんの想いを支えるのが、私たち訪問看護師の役目です。患者さんやご家族が少しでも心地よい時間を過ごせるよう、症状緩和のほか、患者さんの不安を和らげたり、介護するご家族の援助をしたり、24時間体制で見守ります。



ホスピス
看護師
愛知国際病院
ホスピス病棟
看護師 副師長
水野 直美

一緒に悩んだり相談できたりする相手でありたい

ホスピス病棟は、人生の最期を一緒に過ごさせていただく場所です。同じ時間を共に過ごすなかで、これまでの人生を振り返りながら、いろいろな思い出話を聞かせていただきます。笑い話、悲しい話、今でも後悔している話、そして人生で学んできた数々のこと…。そのすべてが私たちにとって、かけがえのない時間です。私はもうすでに両親を見送っています。いつか自分自身が動けなくなる状況など、いろいろと思いを巡らせては、どのように最期を迎えるのかと考えます。けれど、思い描くようにはいかないかもしれません。いずれにしても、人生の最期に、一緒に悩んだり相談できたりする相手がそばにいてほしい。ホスピスがそういう場所であればいいなと思っています。

→次号「みなみやま」ではホスピスの特集します

世界共通の
看護を学ぶ

「ELNEC-J」
教育プログラム
エンドオブライフ・ケアを習得する



ELNEC-J指導者とスタッフのみなさん

※ELNEC(The End-of-Life Nursing Education Consortium)は、米国のアメリカ看護大学協会などが設立した組織。エンドオブライフ・ケアや緩和ケアを提供する看護師に必須とされる能力修得のための体系的な教育プログラムを開発しており、ELNEC-Jは日本語版。

愛知国際病院では、エンドオブライフ・ケアや緩和ケアに関わる看護師を対象とした教育プログラム「ELNEC-J」に積極的に参加しており、終末期の看護に求められるケアの習得に力を入れています。院内外を問わず同じ志を持つ看護師が集まり、ディスカッションなどを通して知識だけでなくより広い視野を身につける機会を設けています。

Dr. ひだまり日記

リレーでつづる



私のふるさと

院長 太田 信吉

私が医者になろうと思ったのは、この町に住んでいた頃の出来事が見つかけです。自分が病気になる時、一軒しかない町の診療所の医師が病気で倒れ、隣町

ものです。

ておぼれてしまう」と叱られた

川にいたらカワウソ(ニホン

カワウソ)に川に連れ込まれ

なると、母から「遅くまで

小学生にとつて貴重な小

遣い稼ぎでした。夕方に

早くに獲りに行きます。

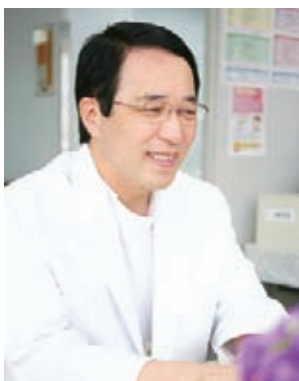
ころに夕方仕掛けて朝

満喫して過ごしました。うな

ぎ獲りは一度中に入ると出

られない丸い竹筒(「じご

く」と言います)を使い、



町には「おさかな館」という淡

水魚の水族館、滑床溪谷には夏

に涼しい「森の国ホテル」などの

自然の魅力を活かした施設もあ

ります。機会がありましたら一度

自然を満喫するためにおいでく

ださい。

まで行かなければならなかった

ことがありました。自然の豊か

さと生活の便利さとは相反する

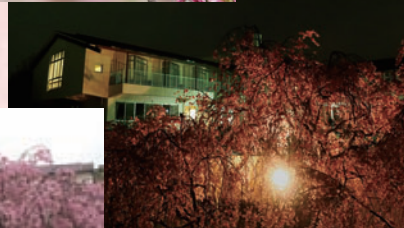
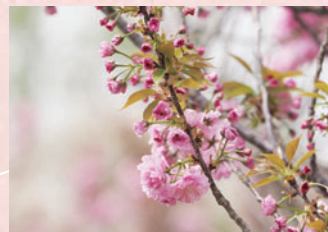
Next Doctor >>> 副院長 河村健雄先生です。お楽しみに!

Photo Letter

桜咲き誇る、季節のなかで

愛泉会の敷地には約100本の桜があります。ホスピス前庭の入り口でみなさんをお迎える早咲きの河津桜は、病院創設者である故川原啓美前理事長の永眠記念に一昨年、新たに植樹しました。敷地内では、この河津桜にはじまり、紅垂れの一重、八重、オオシマ、ソメイヨシノ、サトザクラ系ボタン桜、御衣黄、コフク(四季桜)と、1カ月以上にわたって来院者や地域の方に桜をお楽しみいただいています。また、ホスピスから見下ろせる本館裏手の紅枝垂れは、4月上旬の平日、ライトアップ(18時~20時頃まで)で照らし出されます。足下に十分ご注意ください、夜桜もご覧いただければと思います。

※お車で越しの際は、駐車場をご利用ください。



愛泉館だより

パワーリハビリ① レッグプレス

パワーリハビリとは

「最近歩くのが遅くなった」「身体が思うように動かない」。それは「使っていない筋肉」が原因かもしれません。全身の筋肉を動かしてバランスを良くし、「活動力」を高めていくトレーニングをパワーリハビリといいます。第1回はレッグプレスを使った運動を紹介します。



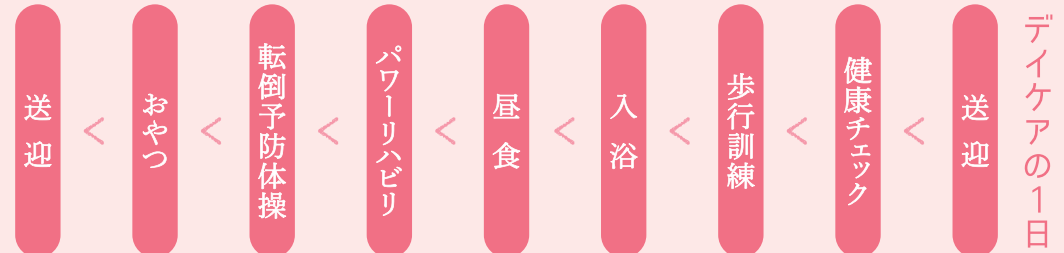
立ったり座ったりを楽にする運動

足首から膝、股関節までを同時に動かし、1つの動作の流れをつくるトレーニングです。今まで動かしていなかった筋肉を動かすことで、立ち上がりやすく、歩きやすくなります。



主な効果

- 「立ったり座ったり」や「階段の昇り降り」を楽にする
- 長く歩けるようにする
- 足の冷えやむくみを軽減する



パワーリハビリを通じて、まず膝関節を滑らかにしました。痛みが軽くなってからは杖歩行訓練をスタート。ご自宅で過ごす時間が多かったAさんですが、「歩くことが楽しくなった!」と笑顔で愛泉館のデイケアに休まず通っています。気分も明るくなり、昔から好きだった編み物も再開されました。

作業療法士 日比野 智

Aさんのケース

(81歳 女性)

膝の痛みが強く、家に引きこもりがちのAさん。「楽しく歩くことができれば、もっといろいろなことが楽しめますよ」と愛泉館のスタッフに背中を押され、パワーリハビリを始めることにしました。

「歩くことが楽しくなった!」
できることを増やすパワーリハビリ



老人保健施設「愛泉館」 4つの役割

「愛泉館だより」と「みなみやま」の合併に伴いこのコーナーで愛泉館の情報を発信していきます!

- ① 入所…機能回復・在宅復帰に向けたリハビリを実施
- ② 短期入所(ショートステイ)…短期的なリハビリのほか、介護者の休養にもご利用可能
- ③ 通所リハビリテーション…日帰りでリハビリ・入浴・食事などのサービスを提供(デイケア) リハビリのみの短時間デイケアもあり
- ④ 訪問リハビリテーション…理学療法士などが訪問し、生活動作のリハビリを実施

ご利用に関するお問い合わせ

☎0561-74-1711 (担当/長屋、浅井)

愛泉館は地域のみなさんの在宅支援を行う在宅強化型老人保健施設です。





電子カルテを更新
愛知国際病院では、1月31日に院内の電子カルテ(診療録)を更新しました。医療情報を電子保存することで、患者さんの大切な情報を長期間にわたって安全に保管できるようにになります。また、医療の安全性、待ち時間短縮といった利便性も向上しました。職員一同、さらに利用環境を改善できるように努めています。病院ご利用の際、何かご不明な点がありましたら、お気軽にお問い合わせください。



ボランティア見学ツアー
ボランティア活動を充実させる研修として、2月に大阪の淀川キリスト教病院を訪問し、院内見学とボランティア交流を行いました。総勢180名のボランティアが活動する院内はとても明るく清潔で、患者さんが安心して受診できるようにさまざまな配慮がなされています。また音楽療法が行われていたホスピスにも柔らかな時間が流れていました。病院の規模や環境などは異なりますが、学んだことを活動に取り入れ、これからも励んでまいります。

ボランティアグループ「紫苑」

AHI(アジア保健研修所)

「遺言書の書き方」講座

毎回好評のこの講座では、遺言書の種類や、必要となる書類、またご自分で書く場合と司法書士に依頼する場合についてなど、遺言書の基本について分かりやすく説明します。「遺言書」を書くことは、自分の人生を振り返り、社会の中で自分を考えることでもあります。どうぞお気軽にご参加ください。



参加費無料

「遺言書の書き方」講座

【日時】2018年5月26日(土) 10:00~12:00
【講師】平良 一器(司法書士事務所 ひらら)
【定員】20名

相続登記無料相談会

【日時】2018年6月2日(土) 10:00~12:00
【定員】4組(一組:30分)※基本的な内容に関する相談会となります。

【場所】アジア保健研修所(AHI)
日進市米野木町南山987-30(愛知国際病院となり)

お申し込みは、事前予約をお願いします(電話またはE-mail)

☎0561-73-1950 ✉info@ahi-japan.jp 【担当/羽佐田】

Cover Story
～チーム愛泉会～



愛知国際病院、愛泉館、ホスピス、えまのスタッフたち。1つのチームとして地域のみなさんを支えます。

ちょっとオフタイム

クラブ活動「釣り部」、目指すはビッグな青魚!

当法人の釣り部は、部員5名で活動中です。昨年秋、部を結成して初めて、一泊合宿を伊良湖で行いました。職場の仲間と挑む魚との知恵比べは本当に楽しく、時間が10倍も早く感じました。釣果は総じて芳しくありません(理由はいろいろありますが)、「釣った魚を料理して片づけるまでが釣りである」を念頭に、家庭に迷惑をかけない範囲で活動しています。今年の目標は、ブリやヒラマサなど大型の青物を釣ることです。それできれば船に乗ってではなく、堤防や砂浜から釣りたいと思っています!(釣り部 近藤正嗣)

釣り部



伊良湖表浜(おもてはま)で獲れたマゴチ。刺身もうまいが、塩焼きも絶品!

医療と介護の相談室



～今回の相談者～
**患者さん
のご家族**

80代の父が神経難病を患って入院中です。約3週間後に退院することになっていますが、自宅できちんとケアできるか心配です。

A

こういったケースでは、入院中の看護ケアやリハビリをご自宅で引き継ぐことが重要なポイントで、訪問看護の利用も選択肢の1つです。まずは、どのようなサービスを受けられるか確認しておくことが大切です。

「訪問看護ステーションえまい」は病院内に事務所を構えており、入院中からご本人やご家族とお会いして不安に感じることを伺い、ご希望のケア内容についてご説明します。訪問看護を開始してからも主治医とタイム

リーに情報交換できるので、往診手配もスムーズです。さまざまな部門や職種と連携し、途切れのない看護やリハビリを提供しながら、24時間・365日の体制で見守ります。利用者さんとご家族が微笑み(えまい)の中で安心して過ごしていただく日々のお手伝いとなるよう、心のケアも大切にしながら自宅や施設を訪問しています。

【今回の回答者】訪問看護ステーション えまい

相談窓口はこちら ☎0561-73-8154(担当/鈴木) 【受付時間】月～金曜 9:00～16:30

心のプリズム

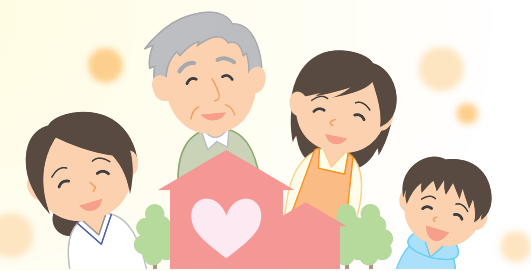
～ずっと忘れたくないエピソード～

2.5人称で接する看護師に

ある患者さんが「がん末期」と診断されたときのこと。ご希望される在宅生活へのサポート体制を整えていた私に、「まだ終末期を受けとめ切れない」と胸の内を明かされ、相手の気持ちを推し量る難しさを痛感しました。一方、在宅介護をご家族だけで抱え込んでいるケースでは、介護保険や社会的資源について説明したものの、結局サービス利用に至らず、自分の力不足を思い知らされたこともあります。

もう10年以上も前になりますが、故川原啓美前理事長からの「患者さんと2.5人称で接する*」という話に感銘を受けました。日々多くの患者さんと接するな

か、言葉によるコミュニケーションだけでなく、その向こう側にあるものを感じ取れる看護師でありたい。患者さんにとっても、スタッフにとっても、心許せる場所となれるような「2.5人称の関わり方」が私の指標であり、人生の目標の1つです。(外来師長 岩本 佐美)



※医療従事者には冷静に物事をとらえる3人称の視点は重要ですが、同時に「この患者さんが自分の家族だったら」という当事者としての2人称の視点も持ち合わせて考えるのが2.5人称の医療。作家・柳田邦男さんが「2.5人称の視点」の必要性を説いたことで広まった言葉です。

※「2.5人称」は柳田邦男氏の著書「2.5人称の視点」(中公文庫)より引用。【今回の記事の監修者】

約20種類の焼き菓子と4〜5種類のケーキが並びます。もちろんすべて手作り。



ターコイズブルーとアンティーク家具が素敵なティーコーナー。



East Favorite

名古屋から東へお気に入りをご紹介

あんしん
材料の
焼き菓子

愛知県みよし市
アニーズ・ベイクショップ



趣味が高じて、焼き菓子の店をオープンした五百川晃子(いもかわあきこ)さん。



10カ月洋酒に漬けたドライフルーツを使ったフルーツケーキと、口の中でふわっと溶ける、いちごのメレンゲ。



一際目立つ、レンガ色のかわいらしい一軒家。

アニーズ・ベイクショップ
(anny's bake shop)

【住所】みよし市黒笹いずみ1丁目10-2

【TEL】0561-36-3388

【営業時間】

平日10:00~19:00

土曜・日曜10:00~18:00

(月曜・火曜休み)

公式Facebookページ
<https://ja-jp.facebook.com/AnnysBakeShop/>

料理する母の姿に導かれて
料理上手な祖母やオープンでパンを焼く母の姿に影響を受け、小学生の頃からクッキーを焼き始めた五百川晃子さん。大好きな家族や友だちに喜んでもらいたい一心で、レシピ本をめくりながらレパートリーを増やしました。気づけば、ウエディングパーティーの企画でスイーツビュッフェを担当するなど活動の範囲はどんどん広がり、2014年に焼き菓子の店をオープン。趣味が仕事となった今も、純国産鶏卵、低温殺菌牛乳、国産小麦粉やバターなど材料にこだわり「安心して召し上がっていただけるもの」を作ることが目標です。その誠実なお菓子作りは、小さなお子さんを持つママにも大人気。ターコイズブルーの店内でのティータイムもぜひおすすめですよ！

賛助会員募集のお知らせ

アメニティーの充実(施設環境、造園、園芸)、ホスピスでの諸行事、ホスピス相談の充実、広報啓蒙活動、家族会の開催、ボランティアの活動、教育活動のために是非ご協力をお願いいたします。(ご入会いただいた方には年に4回広報誌をお送りいたします)下記の口座に会費をお振り込みください。

- ・郵便振替口座 00890-5-3757
- ・口座名義 愛知国際病院ホスピス賛助会
- ・一口 1,000円 (おいくらでも結構ですが、できましたら、5口以上をお願いいたします)

編集後記 リニューアル第一弾は、最近よく耳にする「エンドオブライフ・ケア」について、私たちの視点で特集しました。これからお役立ち情報や季節の話題など、「次号が楽しみ」と言われる広報誌にするために、カチコチの頭をほぐさないで…。ではクイズ。「季節が秋→夏→春→冬となるのは？」脳トレにレッツトライ♪(諸石)

●これまでお寄せいただいているご意見・ご感想、大変感謝いたしております。今後ともよろしくご厚意申し上げます。

↑解答はP9の下をご覧ください。

【医療法人財団 愛泉会】

- 愛知国際病院
- 老人保健施設 愛泉館
- 指定居宅介護支援事業所 愛泉館
- 日進市東部地域包括支援センター
- 訪問看護ステーション えまい
- 住宅型有料老人ホーム カナン

〒470-0111 愛知県日進市米野木町南山987-31 Tel.0561-73-7721(代) Fax.0561-73-7728 <http://aisen-kai.jp/>

医療法人財団 愛泉会 広報誌「みなみやま88号」 発行日:2018年4月1日 発行人:太田信吉 編集発行:法人だより委員会 編集長:近藤正嗣

※無断で複写、複製、転載することを禁じます。



スマートフォンでもご覧いただけます

お問い合わせ

医療について ☎0561-73-9179 (地域医療連携室)

介護について ☎0561-74-1300 (日進市東部地域包括支援センター)

【医療・介護についての受付時間】月～金曜 9:00～17:00 土曜 9:00～12:30